

マツモトアキノリ



α STATION FM KYOTO 89.4

SPECIAL INTERVIEW



声のパフォーマンスでリスナーを魅了するDJに

やりたいことよりやれること

「自然体」からの脱出

僕の場合、憧れとか夢でDJという仕事を選んだわけじゃなくて、冷静に自己分析した結果なんです。学生時代に就職を考えたときに、音楽に携わる仕事をした方がいいのと、声がいいねと言われることが多かったんで、その声を活かしたい、この2点でラジオDJという仕事があるじゃないかと、それで早く資料を集めてDJ学校に通って、在学中にいまの事務所に入りました。したいことに対して計画的にプロセスを決めて実現させていくタイプなんです。今の自分にやれることは何か？って考えたら、DJに行き着いたんです。

最初の頃は「自然体」を意識していたんですけど、でもそれじゃダメだって気づいたんですね。この音声を通したらどう伝わるか、ヘッドフォンを通して耳に届くニュアンスを客観的に判断するようになったかな。口から出る声じゃなくて、一旦耳を通った声を大事にしています。要は自分の声が好きなんです。要は、番組内で圧倒的に意識しているのは、声のパフォーマンス。トーンやキャラを、時間帯やリスナー層によって七変化しているように。それには普通に喋ってるだけではアカンでしょ？ たまたま車で聴いてた人が思わず前のめりになるような番組づくり

1977年12月15日生まれ、京都市在住。関西学院大学時代は、好物の酒とコンパ(喋りのテクを磨くため?)とバンド活動に励む。某DJ学校で勉強後、4回生のときに(有)ともだち事務所へ、'04年からα-STATIONにてDJを務める。

Matsumoto Akinori

が理想。僕自身がこの仕事を始めるまでは、ラジオを聴く習慣がなかったから、たくさんあるメディアの中でももっとラジオが生活の一部になればいいなあと思います。

最大の武器は声とキャラ

α-STATIONの仕事が決まったとき、「下手くそやけどキャラクターが好きだ」と言ってもらって(笑)。ありがたいなと、声がいいって気づいたのは学生時代かな？バンドでボーカルやって、ライブのMCがすごい好評で、歌じゃなく(笑)。それから、MCだけ頼みたいとか、アクセント的に声ほしいとか、その声を維持するために、気をつけていることはいくつかあって、まずは本番前のストレッチ、柔軟発声。僕以外にやってる人を見たことないけど、これは大切にしていること、DJマツモトアキノリになるスイッチみたいなもの。夜遊びも好きだし、お酒も好き。週末になるともうひとりの僕が出てきて、精神的開放を企む。夜の遊び場を極めたいし、せつかく京都に生まれて京都に住んでいるんだから、もっともっと京都を知りたいですね。

DJとディレクターの共存

DJとしての自分は良くも悪くも楽観的。成功することを考えて、自身を開放してる。それがテンションを上げる反面、詰めの甘さが出たり。でも、ディレクターとしての自分は慎重。「失敗することを想定してつくれ」と周りからよく言われるけど、確かにその通り。CDが止まったり、出す素材が間違ったりしたときに、焦らないで対処できるように万全の準備をしておくといいですね。またまたこれからは、よく番組をつくっていききたい。まずは一度聴いてください。それでダメならしょうがない(笑)。でも、自信はありますよ！



DJ's Favorite item

真実、本質を捉える目を意識させられる小林よしのりの「挑戦的平和論」に、強いメッセージ性に惚れたRAGE AGAINST THE MACHINEの「Evil Empire」、学生時代バンドでコピーしたDIZZY MIZZ LIZZY「DIZZY MIZZ LIZZY」をセレクト。作品のクオリティはもちろんのこと、「つく」の手の信念や生き様に共感しました」とマツモトさん。



STARDUST PARADE

毎週月～金 22:00～24:00

DJ: マツモトアキノリ(月～木)、川原ちかよ(金)

JPOPのヒットチューンを中心に、話題ポップスをセレクトしていく青春リクエストプログラム。遊び心いっぱい「同世代の今」を伝えてくれる。月曜～木曜は頼れるアニキ?のマツモトアキノリさん、金曜は川原ちかよさんが楽しく「スタバレウィークエンド」として、人気のJPOPアーティスト、メッセージももりばめてお送りする2時間。